

干支のエトセトラ（戌編）

Index

- 1 干支の由来
 - 2 戌に関する話
 - 3 戌にちなんだスピーチ事例
-
-

1 干支の由来

1) 干支の起源

年の瀬が迫ってくるとよく話題に上るのが、次の年の干支（えと）に関することです。一般的に、巳（み）年や申（さる）年など、動物の名前を当てはめたものが干支であると認識されています。

しかし、よく考えてみると「干支とは何か？」について、はっきりと答えられる人は意外と少ないものです。本稿では、あまり深く知られていない干支について、分かりやすく説明していきます。

干支は、古代中国に起源を持ち、年月日や時刻、方位などを表す呼称とされる言葉です。

干支の「干（え）」は10種類あり、十干（じっかん）といいます。

（図表1）【十干】

甲（こう）	乙（おつ）	丙（へい）	丁（てい）	戊（ぼ）
己（き）	庚（こう）	辛（しん）	壬（じん）	癸（き）

これに陰陽五行思想を結びつけて、それぞれ陽を意味する兄（え）、陰を意味する弟（と）を当てて、次のようにも読みます。

（図表2）【陰陽五行思想と結びつけた読み方】

甲（きのえ）	乙（きのと）	丙（ひのえ）	丁（ひのと）	戊（つちのえ）
己（つちのと）	庚（かのえ）	辛（かのと）	壬（みずのえ）	癸（みずのと）

一方、干支の「支（と）」は古代中国の天文学で、木星の位置を示すために天を十二分した呼称を起源にしており、十二支といいます。

（図表3）【十二支】

子（し）	丑（ちゅう）	寅（いん）	卯（ぼう）	辰（しん）	巳（し）
午（ご）	未（び）	申（しん）	酉（ゆう）	戌（じゅつ）	亥（がい）

さらに、十二支を動物に当てはめて次のような読み方になったのです。

（図表4）【動物に当てはめた読み方】

子=ね（鼠）	丑=うし（牛）	寅=とら（虎）	卯=う（兎）
辰=たつ（竜）	巳=み（蛇）	午=うま（馬）	未=ひつじ（羊）
申=さる（猿）	酉=とり（鶏）	戌=いぬ（犬）	亥=い（猪）

中国では、古く殷（いん）の時代（紀元前16世紀～紀元前11世紀ごろ）から、この十干十二支の組み合わせで年月日が数えられたといいます。これが干支の起源です。

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。